

志摩病院運営報告会及び関係団体等個別聴取での意見（まとめ）

三重県病院事業庁

意見の聴取状況

1. 志摩病院運営報告会の開催

- 開催日時 令和元年8月29日（木）19時より
- 開催場所 志摩市商工会館
- 参加者数 住民等約60名（アンケートを実施 37名より回答）

2. 関係団体等個別聴取の実施

- 実施期間 令和元年8月22日（木）から9月20日（金）まで
- 訪問先 志摩市自治会連合会、志摩地域医療を考える会、志摩医師会、志摩市民病院、町立南伊勢病院、豊和病院、志摩広域消防組合、志摩市役所、県立志摩病院（計9団体等）

1. 総論

住民

- ・住民の間でも、志摩病院は本当によくなった、安心したとの声が多くなった。
- ・志摩地域にとっては、なくてはならない病院である。
- ・高齢者が多くなるので、肺炎や骨折など高齢者の病症に対応した病院でよい。
- ・診療科目が増えるとよい。

医療関係者

- ・住民は24時間診てくれる医師と場所があることを望んでいる。
- ・専門性の高い分野は伊勢赤十字病院で診てもらえばよい。

自治体等関係者

- ・救急医療と小児科の2つを優先してほしい。

2. 医療機関との連携

住民

- ・地域の人口が減少していく中で、医療財政を破綻させないため、地域の医療ニーズを的確に把握し、志摩病院と志摩市民病院が役割分担に応じた医療を提供すべきである。
- ・志摩市民病院と統合し、医療の充実を図ってもらいたい。
- ・志摩市は細長く、志摩町や大王町は志摩市民病院がなければ非常に困る。一方で、浜島町や磯部町は志摩病院よりも伊勢に近い。地域的な問題があるので、機能の要否のみの役割分担論はなかなか通らない。
- ・がん等高度医療の分野は、伊勢市内も含めた病院間の連携強化をお願いしたい。

- ・伊勢の病院への通院が大変であるため、抗がん剤治療などは志摩病院で診てほしい。
- ・開業医との関係があるかも知れないが、初診に紹介状が必要なのはどうかと思う。

医療関係者

- ・志摩病院に求められるのは、救急医療と子育て支援、産後ケアを含めた小児医療である。救急後の回復期や慢性期は、開業医と志摩市民病院がその役割を担えばよい。
- ・志摩病院の立ち位置を確認し、伊勢赤十字病院も含めどのように連携していくのか議論が必要である。
- ・紹介状を書く際、伊勢までは遠いので志摩病院を紹介してほしいとの要望が多い。

3. 医師確保

住民

- ・引き続き、医師確保に努めてほしい。
- ・一部の診療科（循環器科、脳神経外科他）では、長期にわたり常勤医師が不在であり看過できない。
- ・医師は非常に過酷な勤務となっているため、働き方改革にも適切に対応すべきである。
- ・収益の向上や患者数の増は、医師の良し悪しで決まるため、レベルの高い医師を配置してほしい。

医療関係者

- ・整形外科医と内科の中堅の指導医が必要である。
- ・医師の総数だけでなく、どの診療科に何名医師がいるのかが大切である。
- ・医師を確保するためには、魅力のある病院にするか、医師の給料を上げる必要がある。
- ・志摩病院を魅力ある病院にし、大学からそれなりの地位のある医師が来るようにならないといけない。
- ・三重大学の地域枠や自治医科大も含めて医師確保を考えてほしい。
- ・外科や整形の医師にとって、症例が少ない病院は物足りない。地方の中規模病院の宿命である。
- ・3ヶ月ごとに総合診療科の医師が変わるので困る。

4. 救急医療

住民

- ・救急病院としてずっと残してほしい。
- ・救急車で搬送されたが、志摩病院は近いので助かった。
- ・時間外でも救急受付ができるようにしてほしい。

医療関係者

- ・外科系医師が増えていないので、夜間の外科系救急の受入体制ができていない。
- ・軽症の外科患者を救急で診察し、病床の稼働率を上げれば経営も良くなる。
- ・外科もできる総合診療医を配置する必要がある。
- ・総合診療医が外科救急を診て、処置できない患者は伊勢赤十字病院へ搬送すればよい。伊勢赤十字病院でしか診られない重症な患者はそれほど多くない。
- ・外科においては、救急で対応した医師が主治医となって入院の対応をするのが一般的であることから、外科系救急を 24 時間 365 日に拡充するには相当数の医師が必要になる。

自治体等関係者

- ・救急については、志摩病院と市立伊勢総合病院に頼っており、充実してほしい。
- ・志摩地域で発生した病気や怪我はなるべく地域内で完結させたい。地域住民からも伊勢方面に行くのは大変だと聞いている。
- ・救急車で患者を搬送するには、救急（消防組合）と医師や看護師とのコミュニケーションが重要である。
- ・志摩病院での救急受入れが難しい場合、伊勢方面へ搬送するため、地域に救急車がなくなる空白の時間が年に何日か発生している。
- ・管轄人口が 6 万人を下回るような消防本部で、搬送件数が年間 4 千件を超える所は全国的にもほとんどない。年齢構成が要因となって、志摩地域では救急が多くなっている。

5. へき地医療

住民

- ・平成 30 年度から間崎島に月 2 回診療に来ていただいております、大変ありがたい。

医療関係者

- ・間崎島への医師派遣について、医師の負担を軽減する観点から見直しが必要である。

6. 高度医療

住民

- ・夜間はドクターヘリが利用できず、伊勢まで救急車でも 1 時間以上かかるので、助かる命も助からない。

医療関係者

- ・志摩病院で、転院や搬送の判断をするためには、脳神経外科や心臓血管外科に常勤医師が必要である。

7. 小児医療

住民

- ・若い世代が安心して暮らせるよう小児科は必要である。
- ・指定管理者制度導入で小児科がここまで回復してくれたのでありがたい。
- ・小児科の入院機能を回復してほしい。
- ・土日は開業医が休みのため、小児科の救急は必要である。
- ・小児科の常勤医師を配置するとともに小児救急もお願いしたい。
- ・急病の際は、伊勢まで行く必要があり、患者や家族の負担が大きい。

医療関係者

- ・住民のニーズは、子育て支援に必要な小児医療（入院と救急の拡充）である。
- ・志摩病院には、子育て支援、産後ケアを含めた小児医療が求められる。
- ・総合診療科の医師が、小児も診ることができる体制にする必要がある。
- ・小児科医と総合診療科医で小児を診ればよい。このような病院は全国にも多くある。
- ・志摩病院で救急の1次対応をするには、小児科の常勤医が必要である。

自治体等関係者

- ・中学生ぐらいまでは志摩病院で一旦診てもらいたい。
- ・子供の状態によっては、夜間等緊急の対応をしてもらえると安心である。

8. 周産期医療

住民

- ・若い世代が安心して暮らせるよう産婦人科は必要である。
- ・10年以上前から出産できない状況が続いており看過できない。
- ・志摩病院に産科がないので、実家に帰省して出産できない。伊勢の病院に入院すると実家の負担が大きくなる。
- ・帝王切開など緊急時は伊勢に行くにも時間がかかるので心配である。
- ・産婦人科医を増やして、最低限の処置ができる体制にしてほしい。
- ・産科は集約化で良い。若い人は伊勢地域の病院で出産を望んでいる。
- ・志摩病院に産科は必要ない。産科より違う診療科に力を入れてほしい。
- ・高齢者にとって、志摩病院に婦人科があることはうれしい。婦人科検診を受けられるとよい。

医療関係者

- ・産科を無理やり引っ張ってくるより、産後ケアを拡充させる方がよい。
- ・産婦人科学会も集約化の方向のため、産科を無理して設置することは流れに逆行する。

9. 精神科

自治体等関係者

- ・入院には対応できていると思う。
- ・外来の予約が取れるのは1か月程度先であり、医師を増やしてほしい。
- ・精神患者は高齢者（認知症など）が多く、遠くの病院に連れていけない。
- ・医師がいなくなった場合に一番影響を受けるのが精神科である。

10. その他

住民

- ・利用者へのサービス面では不満の声を聞くことが多い。
- ・病院ボランティア（住民有志による病院での介助等）は、今後も継続してほしい。
- ・病院ボランティアの数をもっと増やしてほしい。
- ・志摩病院の取組状況や成果、課題をもっと住民に伝えてほしい。
- ・指定管理者から毎年説明会があるが、このような三重県との意見交換も大切である。

自治体等関係者

- ・志摩病院の診療科の設置状況や活動があまり知られていないので、志摩病院ニュースを自治会供覧で回してもらおう等、PR方法を見直す必要がある。